

東 奥 日 報

2018年(平成30年)6月5日 火曜日 (14)

工業技術で地域貢献

若手研究者が成果報告会

八 戸

一般財団法人・県工業技術教育振興会（理事長・長谷川明八戸工業大学学長）は5月31日、2017年度に同振興会の助成を受けた若手研究者による成果報告会を八戸市の同大学で開いた。工学、デザインなどさまざまな分野の12人が発表した。

同大学の伊藤智也准教授はAI（人工知能）を活用して、同市のウェブサイトに広報の情報に関する問い合わせに回答するプログラムを試作した。例えば「住民票がほしい」と入力すると、発行できる場所や費用などを文章で案内する。質問に対してどんな回答をしたかは記録され、精度向上に役立つ。現在も改良中という、伊藤准教授は「質問に対して適切に回答できるようにするには、これからも人間の仕事が必要」と述べた。

同大学の横溝賢准教授は「デザイン教育を通じて学生の地域への帰属意識を高めた」として、郷土玩具「八幡馬」を題材に学生が文様を制作した取り組みを紹介した。フィールドワークや作り手へのインタビューなどを通じて「地域の物語、背景を語るデザイン」を学習。「地域文化への関心が以前より増した」とアンケートに答えた学生が7割を超えたと報告した。

（新村菜穂）

若手研究者が成果を発表した報告会



※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」